

令和2年度 病害虫防除技術情報 第10号

令和3年3月26日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

麦類赤かび病の防除対策について

本年度は1月下旬以降気温が平年より高く、麦類の生育が早く、出穂期もかなり早い傾向です。今後の気象予報も高温傾向であることから麦類赤かび病の防除時期が平年よりもかなり早まりますので防除時期を失しないように2回の防除を徹底しましょう。

麦類の生育状況

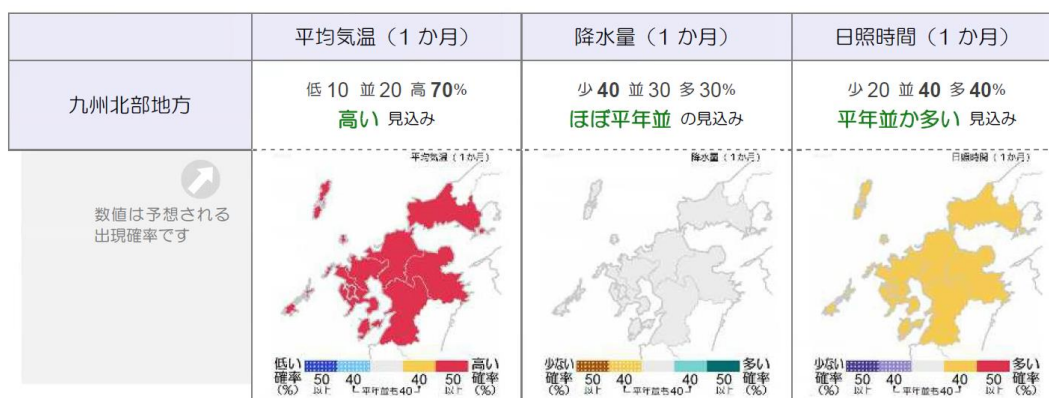
- (1) 水田農業グループが令和3年3月25日に発表した令和2年播き麦類作況判定試験結果では、いずれの品種も平年より極めて生育が早く、旺盛であるとされています。圃場によっては出穂が2週間程度早まる可能性があります。

今後の気象情報

- (1) 3月18日に福岡管区気象台が発表した「九州北部地方1か月予報」（3月20日から4月19日まで）は以下のとおりとなっており、高温で推移する可能性が高くなっています。



http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/109_00.html



麦類赤かび病の感染時期と防除適期

- (1) 小麦と裸麦では「開花最盛期から10日間程度の間」が最も感染しやすく、二条大麦では「葯が始める時期」に感染しやすいため、この間に降雨が続き気温が高いと多発しやすくなります。今後の気象状況に注意してください。
- (2) 防除適期は以下の「防除上注意すべき事項」を参照してください。

防除上注意すべき事項

- (1) 赤かび病の防除適期の目安は出穂期から予測することが可能です。水田農業グループによれば、宇佐市における出穂期は表1のとおりです。

表1 麦類の出穂期（宇佐市 令和2年11月18日播種）

播種時期	麦種	品種	出穂期	平年	差
11月18日	二条大麦	ニシノホシ	3月20日	4月4日	-15
	裸麦	トヨノカゼ	3月25日	4月4日	-10
	小麦	チクゴイズミ	3月26日(予測)	4月8日	-13

注) 最新の情報は農林水産研究指導センター農業研究部水田農業グループ HP を参照。

出穂期予測は「令和2年麦類作況判定試験結果（第5回）」に掲載。

<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/>



- (2) 小麦の出穂期や開花期等に関しては、農研機構・西日本農業研究センターがアメダスデータを活用した生育予測システムを HP 上で公表しています。リアルタイムアメダスを用いた麦の発育ステージ予測



http://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/meteo_fukuyama/WEB/wheat/index_mugi.html

- (3) 防除適期が短いので、降雨が続く場合は合間を見て散布してください。
- (4) 表1の出穂期で気温が平年並の場合、予想される1回目の防除適期は表2、2回目の防除適期は表3のようになります。ただし、**品種、地域、播種時期、気温の推移**などで出穂期が異なるので、**圃場に合わせて防除適期を計算し、その期間に防除を行ってください。**

表2 1回目の防除適期

麦種	品種	出穂期	防除時期の目安
二条大麦	ニシノホシ	3月20日	3月30日～4月1日（出穂期12～14日後ごろ）
裸麦	トヨノカゼ	3月25日	4月1日（出穂期7日後ごろ）
小麦	チクゴイズミ	3月26日（予測）	4月2日（出穂期7日後ごろ）

表3 2回目の防除適期

麦種	品種	出穂期	防除時期の目安
二条大麦	ニシノホシ	3月20日	1回目防除から7日後
裸麦	トヨノカゼ	3月25日	1回目防除から7日後
小麦	チクゴイズミ	3月26日（予測）	1回目防除から7日後

(5) 2回目の防除適期を過ぎていても、感染しやすい条件に該当する圃場では1回目防除の20日後くらいまでに2回目防除を行えば防除効果が期待できます。ただし、薬剤の収穫前使用日数に注意が必要です。

(6) 主要薬剤の麦種ごとの登録は以下を参照し、薬剤の収穫前使用日数には十分注意してください。

表4 麦類赤かび病対象薬剤

【散布】

作物名	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	トップジンMゾル トップジンM水和剤	1,000~1,500倍	60~150L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	シルバキュアフロアブル	2,000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	2回以内
麦類 (小麦を除く)	トップジンM水和剤	1,000~1,500倍	60~150L/10a	収穫30日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
麦類 (大麦を除く)	ワークアップフロアブル	500倍	25L/10a	収穫7日前まで	3回以内
大麦	シルバキュアフロアブル	2,000倍	60~150L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	ワークアップフロアブル	500倍	25L/10a	収穫7日前まで	3回以内

【無人航空機による散布】

作物名	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内
麦類 (小麦を除く)	トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
麦類 (大麦を除く)	ワークアップフロアブル	10~16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
大麦	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	ワークアップフロアブル	10~16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内

大分県農林水産研究指導センター農業研究部 病害虫対策チーム

ホームページアドレス

<http://www.jppn.ne.jp/oita/>

